

## 第 16 回 図書館建設運営委員会 全体会

日 時 平成 21 年 4 月 15 日(木) 19:00～21:15  
場 所 公民館 講堂  
出席者 専門部会委員 14 名  
ナスカ一級建築士事務所 古谷氏、八木氏、杉下氏、橋本氏  
富岡参事、山岸 GL、  
花井館長、小林 (文)、田中、松谷  
職員プロジェクトチーム 1 名

### 議事録

1. 開 会
2. あいさつ
3. 事務局からの報告

(事務局) 現在の状況等を踏まえて二点お話しします。まず、電算化の作業状況です。移転準備ということで電算化作業を行っていますが、現在データ入力の前準備の図書の種類などを行っています。バーコード貼り作業や、データ入力については委託業者さんをお願いして、そちらが中心になり引き続き作業を行っていただいています。それから、これら作業と平行して、こちらの職員とスタッフは4月からブックコートを貼る作業にも入っております。もう一点、外構工事についてですが、こちらにつきましては平成21年度事業ですので、工事の発注に向けて準備を行っている状況です。外構工事につきましても本体工事と同様、6月30日竣工を目指しておりますので、ご承知おきいただければと思います。事務局からの報告は以上です。

#### 4. 工事進捗状況の報告 (ナスカ一級建築士事務所)

(八 木) 皆さんこんばんは。この1ヶ月の工事の進捗ですけれども、外から見ても、だんだん屋根の形がごつごつしていた屋根から、少しなだらかな山のようになってきたのを感じている方もいらっしゃるかもしれませんね。先月はまだ主要構造部の梁の所にしか鉄骨が架かっていなかったんですが、そのあと、まるい山のような屋根を造るように、もうちょっと細かい鉄骨の材を架けまして、その上に野地板という板を重ねております。その野地板の上にこれから防水の工事をしまして、それから最後に軽金属の板を葺いて屋根ができあがります。ですから、今ちょっとブルーシートが掛かって見苦しい状態ですが、今後防水が終わると、前にお見せした、いぶし瓦色の金属板を葺くことになります。興味

がある方は内部を是非訪ねていただきたいんですが、今は足場だらけで全貌がよく見えない状況です。天井の中の設備の配管や電気の配線など、天井を張ってしまう前の工事をやっていますので、外から見えるこういった屋根に沿ったような形で、中にも全部足場が掛かっています。皆さんに上に上がっていただくのは危険なのでご案内できませんが、私たちは足場の上の方まで行って配線が逆ですよとか、鉄骨が間違いなく施行されているかとか、そういうことを大概、水・木・金・土と現場にいて進めております。

サッシは殆ど全部、枠だけ付きました。それにガラスを入れると窓は完成します。ただし屋根や外壁を造らないと、完全な防水はできませんので内装工事には入れない。大体5月1日ぐらいを目指して、中の天井を張り始めますので、4月中は外周りの追い込みに入っています。このあと古谷が参りますので、そこでこんな仕上げにしようと思っていることを皆さんにご報告しようと思いますが、こと外壁については町長さんとも何度も攻防戦がありまして、それについても後で経過を報告したいと言っております。

(事務局) ありがとうございます。今、建設の工事の工程や、事務局からの報告がありました。何かご質問あればお聞きしたいと思います。

(委員長) 見学会はありますか？

(館長) 要望は出していますが、今のところ現場監督さんのほうから、もう少し待つて欲しいと言われてます。要は今おっしゃったように足場がたくさんあって足元がちょっと危ないと。これだけの人数、皆さん行きたいとなるとやっぱり責任を持ってご案内できないということがありますので、もう少しお待ちくださいという連絡をいただいています。

## 5. 会議事項

### ● 選書委員会について

(委員長) 選書委員会についてまずお話ししたいと思います。先月の3月12日の全体会議で、私のほうで選書委員会のあり方について、たたき台としてお示しし皆さんのご意見をいただきました。最終的にそれを持ち帰って、館長の方で整理したものを今回宿題として提示していただくということをお約束いただいでいて、今日は資料を整えてもらってありますので、館長から選書委員会の案についてお話いただきたいと思えます。その後皆さんからご意見ください。

(館長) 前回いただきました委員長私案と皆さんからのご意見をまとめてみました。前回にありましたように、町職員と、住民の皆さんのほうでは、絵本・幼児系が1名。お子さんを持たれて活躍されている町民の方の中で、この間は「おはなしの会」さんが挙がりました。そしてビジネス系学識経験者で1名。福祉・医療系で1名。教育系では町の中に小学校、中学校ありますので、担当の先生

1名ずつということで2名としております。それと、前から挙がっていますが、「まちづくり委員会」から1名。「まちづくり運営委員会」がありますので、お話を持って行ってそこから代表で来ていただけたらいいんじゃないかなと思います。1名としました。それと、このあとも議題で出てきますが、前回、図書館の運営委員会を設立しようという意見が出ました。それを受けて、そこから1名ないし2名。これでだいたい町民の皆さんが8名ほど。そこに、町職員。そして前回も出ていましたが、プロの目線といたしますか、専門家にアドバイザーとして入っていただく。ここには、思い当たる方々のお名前を挙げさせていただきました。高野明彦先生は、以前から出ているアーカイブや連想で一度講演していただいております。小布施への協力を惜しまないと仰ってくださっていますので、毎回ではなくとも、何かお力をいただけるのではないかと思います。白砂洋志夫先生は上智大学や清泉女学院短期大学で教鞭をとられていました。今は論文を執筆中で、小布施にもしょっちゅう顔を出されています。科学系、環境系の先生なので、仲間に入っていただくのもいいのではないかと思います。そして、図書館アドバイザーとしてお願いしている宮下明彦先生。それから、読書アドバイザーの小林いせ子さん。この4人に限ってではないんですが、このような知を持たれる方々にアドバイザーとしてご意見求めながらやっていったらどうだろうというふうに、挙げてみました。

選任と委嘱に関してはこの間委員長が出したままですけれども、このへんについてもちょっと議論していただければいいかなと思います。会合は月2回。本も毎週毎週どんどん出版されていますが、月2回というペースであれば、きちんが見れるのではないかと思います。方針としては、こちらがある程度たたきを作りまして、それをもとに議論をし決定していく。年末にはその年の選定の方法とか、選書の方法を見直しながら前に進んでいくというやり方がいいのではないかと思います、ここに案として出させていただきました。以上です。

(委員長) どうもありがとうございました。だいぶ具体的な名前も挙がって、明確になってきていると思います。これも1ヶ月前に一度たたき台を出しているんですが、皆さんのご意見いただければと思うんですがどうでしょうか？

(委員) 人選は全然わかりませんが、やはり専門家に任せた方がいいと思います。

(委員) 選定委員会やあれやこれや会議を開くと、運営的にどっちにしても、あまり本を買えるお金がないし、アドバイザーの先生方をお願いするにも、それなりの費用を心配するんですけれども。たくさんの方のアドバイザーの方に来ていただければ、それだけいろいろな声が聞けるとは思います。謝礼の費用の兼ね合いや人数が…。

(館長) アドバイザーの先生方への講師謝礼については予算をとっていますので、その範囲内で、超えることはないようにやっていきたいと思っております。本の購入予

算は少ないとはいえ、その中でやっていくためにどのように選書をしていったら良いかという選び方になると思いますので、無いからやらないというのではなく、逆に予算内でどう工夫したらいいかというご意見を、皆さんと考えていけたらと思います。

(委員長) 他はいかがですか？館長、今日はどこの辺までこれを皆さんに同意いただいて決定に持っていきたいですかね？

(館長) そうですね、議論していただけるんならどんどん議論していただいてもいいし、この方向で一度やってみようじゃないかでもあるかもしれない。それも決まれば、教育委員会を通さなければいけないですけども、皆さんの意見を集約できればすごくありがたい。活発なご意見をいただけるとまとめやすい。

(委員長) できればこの会議で、方針を皆さんに承認していただければ教育委員会で一度固めていきたいということです。もしこれで皆さんよろしければ、この会としてはこの方針で承認ということにしたいと思いますけれどもよろしいですか？疑問点、どんなことでも。

(委員) 一応これで進めてもらって、もし不都合が出たら、そのときに会議を持てば。

(委員) 基本的にはこのようにやってもらっていいと思います。ただ、細かいことで恐縮なんですけれども、「まちづくり委員会の運営委員会より」となっていますが、全体会の中で議論することも可能性としてはありますので、「まちづくり委員会より」ということでお願いします。

(委員) 教育系で、小・中学校の司書の先生達が入っていますが、これはもう了解済みなのでしょうか？月2回というのは先生方お忙しくて大変だと思いますが…。

(館長) 町報に植栽と、開館行事プロジェクトというのを出しましたね。それは小学校の校長先生、教頭先生、担当の先生に了解いただいています、そのときは選書の話はまだ出ていませんでした。ですが、先日正式ではないですが、話しています。前向きにということでしたので、この方向性が決まればまたこれで先生と話して校長先生、教育長に話をしよう。

(委員) 若い人はいますか？例えば、中学生、高校生、大学生。未来に繋がると思います。

(館長) 茅野市の例では、高校生が入っているんですね。その辺のご意見があれば聞かせていただければ。

(委員長) とても大事なご意見だと思います。高校生も小布施にはたくさんいますし、短大や専門学校に通っている人たちもいます。ヤングアダルトのコーナーの充実をとという傾向もありますので、そういった人たちの意見を反映させるのはいいと思いますが、この組織においてどうやってやるかですよね。

(委員) いっぱい入れたほうがいいなあとと思う人がいて、高校生とか中学生もそうですし、理科大の学生や先生や。僕も入りたいと思うんですが、あまり人数が多

くなると、ちょっと大変かなあというのもあり、だから、固定メンバーと、スポット的にするという人がいてもいいという気はしますね。如何に広いところから情報を得たり、選んでもらうかというところが大事なところかと思います。

(委員) 人を増やすというよりも、希望図書の受付、リクエストを如何に広く集めるか。全ての本を購入できるわけではないから、それよりも早めにリクエストを受け付けてくださるような感じで。広く購入希望や読みたい本の情報を集めていただいてその中で偏らないように選んでいただくのが選定作業だと思うんですね。ですから、いつからリクエストを受け付けてくださるのかなあと。希望を出してもらうのに、公民館活動とかサークルとか、いろんな活動している所にも読んでいただく本とか参考になる本の情報を集めていただければ、皆さんはすぐに飛びつくと思います。いつもリクエストを寄せてくださっている方たちは毎日、新聞や何か見ていると思うんですよ。開館の時に10人が同じ本と来る時もあると思うんで、そういうところも早めな対応を。

(館長) おっしゃる通りだと思います。今の図書館の基準があるんですよ、こういうふうにはリクエストにお答えしようとか、こういうふうにはしようとか。これに肉付けして行って選書委員会の皆さんで、選書する方針をまず決めて、リクエストもそれに則って基準を作って動いていく。そうするとだいぶ見えてくると思うし、おっしゃられるようにどんどん来ても迷わない。今、各自治体の図書館の基準等調べていますが、いろいろな基準があります。金額まで出してこの金額以下のものはリクエストに答えないとか、細かく決めている所もあれば、もうちょっと柔らかくやっているところもあるし、その辺も含めてまずここで、皆さん議論しながら。それで、選定委員会で選ぶものもあるし、町民の皆さんがリクエストするものもあるし、どんどん進めていけるかなあと感じています。

(委員長) 今、組織をどうするという話と、リクエストなどの情報をどうやって集めるかという仕組みの話の2つが出ています。若い人の意見を入れるというのは組織の中に若い人を入れるというのも大事なんですけども、仕組みとしてそういったものを入れる工夫をするというのもすごく大事だと思います。選書委員会の組織論ということになれば、今上がっている皆さんでいいのか、それとももう少し、高校生なり大学生を1名入れる形にした方がいいのか皆さんご意見いただいて、あとは館長の方に預けたいと思うんですが、どうですかね？

(委員) すごくいいアイデアだと思います。

(委員長) 小・中の視点はこの先生方が多分代弁してくださると思うんですけども、確かに、高校・大学、若い人たちがなかなかこの組織だと入りづらい感じはしますね。その辺を皆さん、ご意見として承って、今日はここで預けるという形でよろしいでしょうか。

## ● 運営委員会について

(委員長) では次に、運営委員会について。今開かれている図書館建設運営委員会というのは、基本的に図書館が開館するまでが役目だと、私は思っています。皆さんも多分、建設と名前がついている以上は7月までだろうなと思っていらっしゃると思うんですけども、この図書館づくりというのは建てるまでもとても大事な過程ではありますが、やっぱり建てた後、どういう運営をするかというのがもっと大事だと思います。そういった意味では住民参加でゼロからここまでやってきたわけですから、運営にも、できるだけ多くの住民が関わることが大事だと思います。そういった意味で運営委員会というものを、開館前に発足させて、運営について考える母体にしたらどうかなと思うんです。それについて皆さんご意見いただきたいと思うんですが…。

(委員) 確かにそれ、いいと思うんですね。具体的に詰めて進めてもらった方がいいんじゃないかと思います。

(委員) 「絵本の会」では夢が膨らんで人が足りなくてちょっと困っているんです。具体的に、おはなしの会は月2回ある所を、おはなし会1回、紙芝居1回とか、エプロンおばさんといって、好きな本を、子どもの好きなリクエストに応じてすぐ、その場で読んであげるという活動をしていたんですけども、今、休んでいるんですが、それを復活させたいとか、いろいろ考えています。

(委員長) 多分絵本の会などは、利用グループという位置付けで、いろんな団体が入ってきていると思うんですが、その中の一つというように考えていいんですかね？運営委員会というのはもう少し運営を考えるみたいな位置付けで、今お話ししたように、ぜひ運営委員会にも皆さんに入ってきてほしいと思います。

(八木) ちょっと私も良くわかっていないんですが…。まず、図書館の正規のスタッフが館長と、司書さんと、それから何人かいらっしゃる。それ以外にボランティアさんという形なのか、ボランティアさんもいて、それから運営委員会のスタッフ、どういう役割分担になるのか気になります。そのへんは？

(館長) 運営委員会のスタッフは、現場に立ってやることはあるのかもしれないですけども、それよりはこの館がどういう方向にいけばいいのか。僕が想像する選書委員というのがすごく近いと思っているんですけども、逆にそこも超えたものであるのかなあとも思うし、その辺を皆さんと議論する場ですよ。図書館には図書館協議会というものがありますけれども、それはちょっと違った、会社でいえば取締役会みたいな位置付けなのではないかなあ、皆さんの意見を聞いていて思っているんですけどもどうでしょう。

(委員) 開館後の運営と今おっしゃられました。2年位前から話し合ってきた、どういう図書館にしたいというイメージも定着してきたんですが、それを更に開館してからよりいっそう発展していくように、わくわくサポーターみたいな、町

としてこういう所で活動できる、そういう意欲のある人を集める、そんな構成を望んでいるのかなあと私は思っています。そうするともうちょっと運営委員会の中身の素案を提示していただいた方がいいですね。ここで僕たち会議してもわからないですから。たくさんイベントやら事業やら、本の専門の方がいて、図書館を動かしているスタッフ揃えを、どれぐらいの層で必要なのかということまで、どこかできちんと原案にして。そのほうがより一層見通しが伝わるんじゃないかと思います。

(館長) 準備室で、委員長さんと皆さんの意見もまとめながら、今回の選書(案)みたいな感じで一度たたきを作って、それを議論するというのがいいですかね。では、次回までに作ってみたいと思います。また、それまでに何か思いついたとか、こういう案が、こういう事例がありました等教えていただければ、それも踏まえてこちらで整理した形で、できるだけ皆さんのご意見で進めていったらいいのかなあとと思います。

(委員) 前に図書館の運営ビジョン案をいただきました。これに4本柱で学びの場、子育ての場、交流の場、情報発信の場というのがありましたが、この4つの柱で責任者というかグループというか、そういうのを具体的に考えていくというのがわかりやすいかなあとと思います。

(館長) 4つの場があるからその場を中心に見る。人選じゃないですけども、誰がこうやって、そこから枝を作っていくという考え方ですね？わかりました。

(委員長) この館を支えたり、推進する組織というか、人材整理ということが大事だと思います。館長以下、スタッフの人と、想定されるボランティア。あと、おはなしの会さんのように図書館を利用しながら役立つような団体。あとは運営委員会のような組織。こういったものが組織図というか、イメージとしてわかるようなものを、次回出せるようにしたいと思います。

私は選書委員会というのも、独立したものではなく、運営委員会の1部門と考えるのもいいんじゃないかと思っています。このあと議論する開館行事プロジェクト、開館行事というのは今年だけですけれども、来年以降も開館記念日などを目安に公的な面白いイベントを講ずるとすれば、そういった行事プロジェクトも運営委員会の部会のようになってもいいと思うし、植栽プロジェクトも、もし時間をかけて5年10年の森を作るとすれば、継続的な存在になりうると思いますので、そういったものを、ある意味統括するものを運営委員会と言い得るのではないかなあと自分の中で思っています。これは次回の全体会に館長の方から開示してもらおうということ…。

(館長) はい。ではお手伝いください。

(委員長) 開館前にこれはスタートしなければいけないし、この後出てくる開館プロジェクトは、今日からでもスタートしなければというような話だと思いますので、

ぜひ、そんなことでよろしくをお願いします。

- **開館行事プロジェクト日程**

- **植栽プロジェクト日程**

(委員長) 開館行事プロジェクトの日程、植栽プロジェクトの日程について話をしたいと思います。

3月の全体会でこの2つについては部会、或いはプロジェクトという位置付けで早速スタートしようじゃないかということになりまして、町報に募集をかけていただいています。その後の経過などを教えてください。

(館長) 開館プロジェクト、植栽プロジェクトともに2名の方からご連絡いただいております。先日委員長さんとお話ししまして、日付を決めて第1回を開催したほうが、思いのある方は参加しやすいのではないかとということで、今日議題に載せていただきました。それで5月の7日と8日、1日ずつ、夜の時間帯で会議を持ちたいと思っておりますが、その点についてご意見があれば。決定した日を4月20日の町報に掲載します。

(委員長) できるだけ早くやった方がいいと思いますし、4月20日に町報に載ると25日ぐらいまでに皆さんが読んで連休明けとなると、5月7日、8日が一番直近の日程かと思しますので、この2日間の中で町報に呼びかけるということによりよいですかね？では、開館プロジェクトが7日の19時、植栽プロジェクトが8日の19時ということをお願いします。

- **愛称の検討**

(館長) 皆さんのお手元に資料を配らせていただきましたが、南は九州から北は東北までなぜか響き渡りまして、いろんな方が応募してくださいました。小布施中学校からは69点も応募があり、1人何点も応募くださった方もいらして、なんと224点になりました。前回、こちらから数点選ばせていただいて、町民の皆さんで投票しようとして皆さんと議論をし、町報にも発表したんですが、予想以上の応募点数でした。そこで、アイウエオ順に並べて議論するとか、いろんな方法を考えましたが、一つこちらの意見として、一度この224点を町民の皆さんに見ていただこうと考えました。ホームページ等で公表し、公表すると同時に、皆さんに絞り込んでいただくのではなくて皆さんのご意見を伺いながら、改めて審査委員会なり選定委員会を設けて議論して、そこで決定した方がいいのではないかと。投票になりますと、偏りが出ることも懸念されますし、これだけ多くのものがありますと、皆さんに全てを委ねるのは必ずしも良いのではないのかなと思ひまして、先日提案しておきながら大変申し訳ないんですけども、こういう形はどうでしょうかというところで、少し議論していただ



ればと思います。こちらで考えました選定委員会、審査委員会という案では、古谷先生にも入っていただき、町民代表の方、図書館関係者が入っていくというふうに考えております。その審査会に対してもこういう感じがいいんじゃないかというご意見がありましたら、この場でお伺いしながら、ちょっと方向転換をさせていただきたいというように思っております。よろしく申し上げます。

(委員長) 今、館長から愛称決定のプロセスについて、予想以上にたくさんの応募があったということ踏まえて、変更をしたいという提案をいただきました。選考委員会、審査委員会というものを設けて、その中でひとつに絞り込んでいくということでご提案いただいているんですが、その決め方についてはいかがでしょうか？もちろん、ここにあるリストで今日はできるだけの時間取って、これについての議論をしたいと思っておりますけれども。

(委員) 今言われたのは、選考委員会で決めてしまうということですか？

(館長) はい。

(委員) 選考メンバーというのはこの委員会ではなくて、また別の委員会ですか？

(館長) そうです。ここでは意見を出していただいて、ここの意見を吸い上げて、あとは選定基準というの、その委員会でもちゃんとお示しして選んでもらおうというのはどうでしょうか？さっきも言ったように4つの柱という理念もありますし、そこはただ単に人気投票になってもいけないなという懸念もあり、じっくり議論する期間を取ってその結果を出していく。その為の前段階としてここで議論し、あとはこれを全部公表して町民の皆さんの意見を吸い上げてから基準を作って議論をしたらどうか、というところです。

(委員) いくつか絞ったものを投票なり、何なりするというものではない、ということですか？

(館長) そうですね。その辺はお詫びなんですけれども。前回は投票して最終的に決めようと思ったのですが、これだけ応募が来るとかなり偏りもありますし、ここから人気投票で選んでいってしまうと、せつかくのものが意味がなくなるのではないかなという懸念もちょっと持っているんです。

(委員) そうすると、人選については、またある程度広範囲に考えられるんですか？

(館長) 今の案としては設計者である古谷先生と、町民の皆さん、誰が代表かという問題はありますけれども、それと図書館関係者。そこにまた誰かあれば、その辺も議論で出していただければと思います。

(委員) 行政の代表の方にもお願いしたら？

(館長) 町長は外壁については物申すけれども、他は皆さんで進めてくださいという命を受けていますので、これは皆で決めていっていいのではないかと僕は判断しています。

(委員) 意見者の一人として。

- (館 長) それはそういう意見として、また出していただければ。
- (参 事) ひとつ補足させていただきます。先ほど図書館長から話がありましたとおり、224点という、多くの愛称の応募があった訳でございます。当初の予定ですと、この中から5点ぐらい委員の皆さんに絞っていただいて、町報で人気投票といますか、投票をやっていこうということだったんですけれども、ちょっと5点に絞りきれないのではないかと。せつかくこれだけの皆さんにご応募いただいたことですから、本来は町報に載せていけばいいのですが、紙面の都合、時間の関係でございますので、ホームページなり、インターネットを通じて皆さんにご紹介申し上げて、皆さんの反応をそこでお聞きしてから選考委員会といたしますか、ひとつの手段・方法として、今の選考基準等を設けた中で一定枠の、それなりに絞ってその中でまた最終的なものを決定していったらどうかというようなことでございます。あまりにも点数が多すぎるものですから、ちょっとここでみなさんにご決いただくには、時間の関係もございますし、決定できないんじゃないかということもありますし、皆さんのご意見をお聞きしながらインターネット上での住民の皆さんのご意見をいただいたらどうかということでございます。
- (委員長) 4月20日の町報にこのことを掲載し、インターネットのアドレスを載せてというような形ですね。意見の集約はいつまでに？
- (館 長) その段取りはこれからです。当初は5月連休明けぐらいまで投票ということを考えていましたので、そのぐらいになるかと。
- (委員長) 選考委員会で決定するのも5月の連休明けということですね。  
決定の方法についてはどうでしょうか？ まず、ひとつ、今参事からありましたように今までのやり方を変えて、選考委員会で決めるという方式がいいかどうかということがひとつ。それがいいとなれば、選考委員会のあり方、人選の仕方についてだと思えます。もうひとつ今日、ここで大事なことは今ここにある224点を時間は短いですけれども見て頂いて、それについてのご意見があれば。私はこれが好きだとか、こういうのは如何なものかというようなこともどんどん頂いて、選考委員会の採用の時の判断材料にしたい、というこの3つに分かれます。まず、提案のあったこの決定の仕方。2段階の投票で決めるというやり方ではなく、選考委員会で決めるっていう形に変更することについて、どうですか？
- (委 員) その選考委員会っていうのは初めて出てきた言葉だと思うんですけども、その選考委員会の構成を何人位の構成にするのか、そういうものに関しての素案みたいなものはあるんですか？
- (参 事) 逆に申し上げますと、ここで5点に絞っていただければ今までと同じ方法でというのは可能かと思うんですが。ただ、あまりの点数なものですから、ちょ

っとそれは不可能じゃないかという意味で、ご提案申し上げます。住民の皆さんの投票なりを否定しているということではなくて、ここから5点というのは、選ぶ方法も考えないと無理かなあという。これだけ活発なご意見いただければ…。

(古 谷) 凄い事だと思うんですね、224点も応募して下さったというのは。それだけ関心が深いということで、とても嬉しい感じがします。また、内容を見てみると、外から様子を覗いて形がこうだからこうしようというような意見もあったりして、皆さんがいろいろ楽しみにして下さるのがわかって、とても嬉しいですが、こういうものってすごく難しくて、せっかく応募して下さった人は、出したんだけれど選ばれないとすごく寂しいんですね。やっぱり出した人が、勇気を奮って出して良かったなあって思えるような何か方法を考えないといけないと思うんです。ですから何か、今参事が仰ったんですけれども、5点以外がぼっさり切られちゃうと大多数の人は、出したんだけれども何かつまんなかったっていう気持ちになって終わっちゃう。これを、224個もあつたことをまず、みんなにPRするのがいいと思う。その方法をさっきから考えているんですが、例えばWebページがあるから、そういうのに出ています、と。極端な話で言えば、そこから、あまりにも多すぎるから候補を選びたいから、私はそれは応援するという人がいたら、とにかく「応援マークつけてください」というようなことをする。それで票数の、人気の高かったものから最後は選ぶことにしますというような、ちょっと時間をかけて段階を踏んで、とにかく224個の名前と由来が張り出してあつたり、インターネットで見える時間を少し取られた方がいいんじゃないかと思っています。その間に224も応募あつたということをPRして、とにかく俺はこれ賛成というのがあつたら、それにどんどん丸増やして行って、それで丸の数の、例えば上位何点から最終的にはみんな投票しますっていうのを。そういうやり方をすれば出した人も、出したものがなんとなく皆の目に触れた状態が一番なるかな。もしかしたらそれがリアルタイムで投票できるようにすると盛り上がりそうな気もするし、変な応援をする、俺のが劣勢だ、俺のを入れろみたいなことも起こるかもしれないんだけど、これは議員さんの選挙ではないので、多少水面下で応援合戦があつても良くて、結果的に最終的に人気のあつたものを選んでから本番という。そういうことですかね。

(館 長) インターネットでの公表はやろうと思っています。そこで投票までは行き着いていなかった。ご意見としては面白いなあと思います。

(古 谷) 投票箱でもいいですよ。

(館 長) そうですね。玄関に張り出すとか、どういうように張り出すかわからないですけれども、人目に付くところには出していこうと教育委員会の中では話し合った意見なので、先生のおっしゃるとおりかなあと思います。その次の段階を

審議する、そういう会があつていいのではないかというのが、最後の提案なんですけれども、その辺を皆さんとお話できればなどと思っています。

(古 谷) 私のさっきの提案をもうちょっと煮詰めると、選定委員会を作らなくても良くて、二段階投票ということに、一段階で候補者・候補案を絞ってそれから町民投票でいいんだと。それで選定委員会を選んだわけではないという方法もあるんじゃないのかなあ。とにかく、出した方が良かったって思ってもらえるような方法を考える。

(委 員) 前回の会議の時には点数絞るって…。それは、公表した段階でもやるんですか？まだ公表してない？

(館 長) 公表していません。今日ここが初めてです。

(委 員) 投票した人はどのように決定されるということがわからないまま、名前が選ばれるかもしれないという程度で入れていいですね？前回のお話の時には、日程的にもそんなにのんびりした話じゃないよというのがあって、そういう意味では選考委員会とかそういう場を設けるようなことが大変なものになるだろうと思っていましたから。選ぶ時に 5 点というのは、もうちょっと増やして、そうでないとどうやって収束していくのか、数が多すぎて大変なんじゃないかと思うんです。いろんな条件があると思うんですが、それに相当したものを、5 点じゃなくても、数点選んでおいて、その中から何らかの形でオープンにして、投票。スタンスとしては投票の前提となる数字、何点という、関心が高かったというところを活用すればいいと思うんですけれども、これはそもそも愛称募集という話でしたので、あんまり大々的にプロセスを作らなくてもという気はするんです。

もうひとつ、正式名称を選ぶことについてはこの場ではないんですよ。

(館 長) 正式名称はあったとしても、皆さんで決めた愛称が表へ出て行くと思います。だから、例えば北斎ホールって言っていますよね。ああいう形で出て行くので、それは基本的には正式名称ではないですけども、気持ちの上では正規になっていくと思うので、そこはプロセスはしっかり踏んで、ちゃんと理念に基づいた名前ではなくてはいけないのかなと思っています。

(委 員) 背景として何名応募ですか？ 1 人一点じゃないでしょ？

(館 長) 一番多い人で 17 点。少ない人は 1 人 1 点ですけど。

(委 員) 流れからいったら、今皆さんが集まった。しかも今日の全体会のお知らせは、文書で 2 回もいただいたので、今日は特別何かあるのかな？と思って来ました。

(館 長) この後古谷先生にこれまでの経過をもっと詳しくお話していただく予定があり、そのために皆さんにしつこく来てくれとお知らせしました。もちろん、愛称の件もありましたけれども。

(委 員) 関心を持って出てこられている人たちの力を基盤としていくのもありなんじ

やないかなと思いますけどね。基盤として総評とか公表するのは、全然問題ないと思います。別の組織を作るというのは大変な作業になるんじゃないかと思います。

(参事) 今色々お話いただいています、224点、百何人の皆さんから応募頂いたという事で、やはり全体の基盤になっていかないといけない。先生からお話しあった通りだと思います。それでインターネット上や町の掲示できる場所に投票場所を設置して、出来るだけ大勢の皆さんに投票していただける方法を考えて投票いただいで…。ただ、そこから5つなり10に絞ってそこからまた投票という事になりますので、なかなか選考していけないということにもなってくるんじゃないかと思います。ですから、一回目の投票で上位5点なり10点に絞り、そこから先は館長が申し上げた通り選考委員会的なもので選考させて頂きたいと思うのですがいかがでしょうか？選考委員をどのような皆さんにお願いしたいかというのは次回までに私どもで案として出させてもらいますので、それをまた御検討いただければと思います。偏ったものにならないような方法というようなものを考えておきたいと思います。

(委員) 私もこれ見てね、すごく栗に関するものが多いですね。小布施町を代表する栗なんですけど、そういうものをこの図書館に残しておくべきか。どういう形で、栗の葉になるか、栗の実になるか、栗の木になるかわからないですけど、そういうのを小布施として大事にしていくのか。それとも全然関係なく、私はこれがいいって言うのを皆さんに5点なら5点選んでいただくとか、その点を皆さんにお考え頂くとかね。私は何かやっぱり小布施らしいものを是非残していきたいと思うので、ちょっと偏った考えになっちゃうんですけど。

(館長) そういうご意見を皆さんに頂きたい。こちらとしては今参事が言いましたように、まず、224点が全国から来たという事を公開する事が先決だと思っています。そこで、栗なのか逢瀬なのか全然違うものなのか含めて、皆さんのご意見を伺いながらまとめていき、投票なり最終的に審査をする時の目印といいますか、そこを含まながら審査するのがいいんじゃないかと思っています。基本的に皆さんの使いやすさや、4つの柱、そういうものが全て入っている名前だと思いますので、色んなご意見を。今ここに来ている方でやるというのもあると思うんですが、この224点に答えるというのは、ここにいらっしゃる皆さんが今度発信して、こんなに来たんだから皆さんでもう一度議論して見ないかというところにあるのではないかなと思うんです。

(委員) 決め方はこのとおりでいいと思いますが、適応範囲といいますか、愛称がなにか漠然と愛称という事だけで出されているので、先程おっしゃられたように、これから先、正式名称の変わりにこの名前が出て行くんだと。いっぱい出された方はどこまでこう考えられたかというのがあると思うので、実際選ばれたも

のがどこまで適応されるのか、本当のサイン計画までこれでいくのかという事も、やっぱり公表する時は明確に書かれたほうがいいと思います。

(委員長) そうですね。ありがとうございます。古谷さんその辺りは。

(古 谷) 今お聞きしていて、さっき 2 人のおっしゃった第一段階を今まで思っていたものより少し広げて。そして、皆さんから投票を頂いて、とにかく候補を絞る。絞ってからは広報なり選考委員会なりを位置付けて、それから責任持って選ぶというのは、確かに一つの方法かなと。僕は二段階とも全部町民投票でやったらどうかと考えていたのですが、そうすると折角これまで図書館交流センターの理念を築きあげてきたものとはちょっと違うような、別の次元で決まってしまうということもある訳ですね。単純に響きだけでとか。という、この愛称という正式名称の代わりにずっと使われ続けていくものが、どうも趣旨とずれているんだけどという名前が自動的に決まってしまうというちょっと危険な所もあるかも知れないから、皆さんの人気の高いものを候補作品にして、そこから後は今までの経緯やこの館に込める意味での将来像を含めて、毎回来てくださっている皆さんがそれを最終的に決めるという仕組みを作るというのもいいかもしれませんね。全部放り出すよりは、最後の案を決める時には今までの話のわかっている、これにするということを含め議論した上で決まれば、今度はそれをきちんと表すようなロゴマークであるとかサインであるとか、そういうのにも自然とつながっていくと思いますね。是非つなげるべきだと思います。

(委員長) どうもありがとうございました。それでは、プロセスとしてはそういった事で宜しいでしょうか。皆さんも是非ご意見、投票してください。

(古 谷) いつぐらいに最後の選定をすると間に合うと踏んでいるんですか？

(館 長) 利用者カードを作ったり印字したり、そこを基盤にすると、5月の中旬。町報が5月20日に出るので町報基準に発表していくのはどうかと言うのが僕の意見です。

(参 事) 最終決定ということになったら、議会に。

(館 長) はい、最終的にはそうです。最終決定の議会は6月でしたか？6月だから公表は出来ませんね。では、もうちょっと遅くてもいいですね。

(参 事) 物理的に書類とか利用者カードとか館につけるサインとかそういう製作可能なものの日程は？

(館 長) 5月いっぱいですね。これを4月20日に、こういう風にしていきますと町報やわくわく通信で公表して、そこからひと月くらいは皆さんの目に触れていくかなという風に思います。

(古 谷) 是非、今後図書館のネットワークにしようといっている色々な施設にもそれを張り出して、そこでも投票できるような仕組みを考えて頂けるといいですね。

(館 長) どんどん膨らんでいきますね。頑張ります。インターネットもすぐに投票の

システムを作れると思うので作ります。

(委員長) 愛称決定のプロセスについては保留ということで急ぎたいと思います。

- 進捗状況について

(古 谷) それでは改めまして。進捗状況という事ですけども、内外装のイメージの話と、それから家具についてある程度具体化していますので、それをご報告したいと思います。内外装のイメージは色々サンプルがありますので、あちらへ移動していただけますでしょうか。現場もいよいよ基本的な骨格が出来てきて、これから内装外装それぞれ進んでいく訳ですが、まず外装のお話からします。

基本的には前から私は小布施の町の中からサンプリングした質材という事で、黒ずんだ木の黒くなった色、それから、漆喰の白い色それからその中間にあるグレーを組み合わせで。とはいっても、どうしても価格の面でも全部特注には出来ないの、通常のアルミサッシを使わざるを得ない所があり、とするとシルバーが出てきてもおかしくないよという事を考えて、比較的モノトーンの白と黒と、グレーないしはシルバーという組み合わせをお勧めして参りました。それだけだと硬くなり過ぎるので、外にも中にも表れる木の部分。これは外で言うと具体的には軒裏のすのこ状に見える部分、中では壁とか色々ありますけど、そういう木の見える所に木地を生かして、もう少し白っぽくした色調で作ったらどうでしょうという事をお勧めしてまいっています。それに対しては町長から、漆喰の色はどうかならんか、この漆喰は小布施にはないんだと言われております。あるような気がするんだけど…。でも、これにはかなり強い思い入れをお持ちのようで、町長のお考えになっているのは、もう少しこの土壁色のところであって、漆喰で言えば、仕上げをしていない下地の状態、あるいは土壁の色のような状態のものは出来ないのかなと。という事で、白にも色々ありまして、だんだんベージュになっていく方向とか、サンプルを色々作りました。その中で一応私もいいかなと思っているのが、この色。真っ白ではない、ちょうど栗落雁みたいな色ですけども、中間的に見える。白からこのくらいまでの色で考えましょうかという事で、大判のサンプルを作って先日現場で、町長と皆さんと見ました。そうしたら、白は相変わらず僕は大丈夫だと思うんですが、中くらいのこういう色では、何かピンとこない。それなら、白いほうがいい、もうちょっと濃いほうがいいという話になりまして、もう少し濃い土壁の色に近い色、そういう色のサンプルを作りましょうという事になりました。今作り始めていますので、こういう寝ぼけた色とか白とか、そういう色を再度明日現場に固めて見て、町長がおっしゃるようなちょっと濃いめの色、これが使えるかどうかの判断をさせていただきたいと思います。この間最後に肩を叩かれて「これ黄色で行こう」とおっしゃいまして、かなり強い意志を感

じているのですが、一応設計者として、デザイナーとして責任を持ってそれで恥ずかしくないか、明日確かめさせて頂こうと。もう一度よくそれを見た所で、どちらの傾向の色になるにしてもデザイン的にバランスがおかしくならないような色を責任持って選ばうと考えております。その他の所もそれによって微妙に変わってきます。白と思っていたときにはそのままの調子でよかったもの、例えばグレーといってもその濃さは、洋服でも着物でも何かの色が変わると合わせる物を少し変えなくちゃいけなくなってくるので。外壁の色が割合強い濃い色になるようでしたら、他のものは逆に薄めにするもの濃いめにするものも出てくるし、それに合わせて色を選ぼうと思いますが、残りの部分に関しては、赤だの青だの出てくるわけではなくて、どちらにしるこの3色と木の色、この濃さみたいなもので調合しようと思っています。

一方、今皆さんにお目にかけているのは、内部のイメージです。天井に関してはさっきの軒先からこういう類の木の管のようなものがそのまま入ってくる感じです。外から見えている屋根の形と同じように中に流れてきているんですが、この木には白い変色をかけようと思っています。変色をかける意味は、やっぱり木の肌そのものだとちょっと山小屋みたいというか、少し木の色が強く出すぎるので、それを抑えて少しおとなしくしたいという事と、照明などをこれに当ててバウンドした時の効果も、実は白いほうが明るさも増すという事もあります。それに対して普通の壁の部分は、基本的にはこういう白い色で考えております。出口は出来ないですけど、基本的には木の羽目板のようになっている壁をその中に入れます。それも同じように天井と合わせてちょっと色味を調節しながら白っぽい染色をして、これは前にお目につけた私がこれまでに作ってきた中にも沢山ある、少し柔らかい木の色になると思います。それ以外にはほとんど主だったものはないんですけど、一番大きいのがやはり、このカーペットの問題です。風除室を入った所から所謂閲覧エリアは基本的にカーペット。今はこの50センチ角のタイルカーペットを採用しようとしています。50センチ角単位で取り替えられるので容易に交換がきくという事と、最新の通信系のケーブルであれば、自由にどこへでもこの下へ這わせられるし、回線を変える事も出来るものですから、そういう意味で設計図をこのように描いています。色味に関しては今ちょっときつい色も出ていますが、ここまでの色ではなく少し暖かみのあるローズ色やピンク色みたいなのがいいかなと思っています。それも現場で実際の色彩と合わせて見ないと決められません。多分すごく淡いこういう系統の色になると思うんですが、割合華やかな色。夏場はちょっと深めに軒が出ている事で日差しが入ってこなかったり、涼しげだったりしていいと思っているんですが、冬場は逆に寒々しい雰囲気はなくしたい、少し暖かさを出したいということで、そういう系統のタイルカーペットを考えています。1



つだけ欠点がある。外から入ってきた時に、泥靴で入ってくるので入り口付近の方が汚れやすい。もちろんその入り口の外で泥を出来るだけ落とせるように、玄関のところの材料とか外構の材料とか色々工夫しますが、それでも校庭を横断して来るルートになっていますから、泥靴に近い状態で入ってくる事になる。今考えているのは、汚れの目立ちにくい色です。丁度 50センチ角単位になっていますから、玄関に近いほうから濃い色をいれて濃い色が自然にまばらになって、最後窓際の奥の方になってくると、薄めの淡い色になるという 2 色使い。最初は濃い色が中心で、だんだんばらばらと薄い色が混ざっていくというような事をちょっとしてみようかなと。うまくいけば、玄関に近い所の汚れが気になりにくくなります。残念ながら庁舎の一階の玄関のところは、かなり薄いこのくらいの色が敷いてあるので、ちょっとくすんで見えます。汚れているのも広く見えてしまうわけですが、汚れが見えにくい少し濃いめの色を探そうと思っています。それに対して、汚れの事もあるならいっそフローリングにしてはどうかというご意見も頂いております。町長さんからも頂きましたが、フローリングだと若干心配な点がある。一番大きな点は足音です。どうしても板自体の音が響いてしまう。この建物は元々カーペットで足音やその他の吸音をして、上でも吸音しているのですが、それが 2つ組み合わせる事で、上には木のデザインで下は柔らかいものというコンビで綺麗に見えるように考えています。これが上が木で下もフローリングでコツコツいうとなると、反響がかなり心配ですね。それからもう 1つは床から空調が噴出す関係で、床が少し温度が高くなる。温風でゴーゴー出るわけではなく、人のいる所が暖まる快適な空調方式ですけれど、それにすると、フローリングの製品に限られます。というのは熱で縮んだり伸びたりする自然木に近いものは使えないので、最近よくマンションとかに入っているクリアの厚いものがかった床暖房用のかなり硬いフローリングを使う事になります。そうなってくるともちろん足音などの問題が気になってくる。材料や方式は全体をコーディネートして出来ていますので、さっきの汚れ対策は色の交ぜ織りみたいな形でカーペットで対応できるのではないかなと考えています。念の為、全国の図書館でタイルカーペット、都会の図書館ばかりではなくそれなりの泥のつきそうな所でタイルカーペットを使用している図書館がいくつもありますので、そこでどのくらいのメンテナンスをどういう風にやっているか調べているところです。もちろんフローリングの図書館もいっぱいありますけれど、その場合は天井が全部吸音材になっている方式のみでした。メンテナンスや方式の頻度はもう少し克明に調べますけれど、基本的な方針としてはタイルカーペットで元々考えていた通りにいきたいなど。外壁の色が変わったのでちょっと今困惑している所があって、これでゆくゆくの色んなイメージがアンバランスになってしまう可能性がありますので、出来たら

カーペットのほうが安心かなと。

(委員) 私は出来たらフローリングにしていだきたい。東京でもマンションの床がフローリングで吸音材って言うんですか、音がしないような方法で作られていると思うんですよね。そういった意味では音の関係は、かなり解消されると思うんですよね。そういう点で是非フローリングにして欲しい。

(古谷) カーペットだとどうして駄目ですか？どこがお嫌いですか？

(委員) 先程もあったけれど汚れが目立つ。開館以降毎日毎日かなりの汚れが目立つのとそれだけの掃除を図書館が出来るのかという話になってくると思うんです。やっぱり、清潔感。入った時にカーペットよりもフローリングの方が清潔感を感じるんです。出来ればフローリングを考えて頂けないかと思うんですけど。

(委員) 靴脱げないですか。日本の文化は凄いなと思いました。靴を脱ぐのは健康にもいいと思いますし、汚れないので掃除の点でもいいですし。

(館長) その辺は会議の中にも出てきましたけれど、車椅子の話とか、皆さん議論した中で靴は履こうと決まった経緯があります。靴を脱ごうという意見もいっぱい出ていたし、日本の文化をそういう風に言ってもらえるのは凄く嬉しいけど、やっぱり今より大勢の方がいらっしゃった時に靴は履こうじゃないかという話になったので、このまま進めていった方がいいんじゃないでしょうか。

(古谷) とてもいいアイデアだと思いますが、靴を脱ぐ為には脱ぐ為の仕掛けが必要なんです。あがりかまちって言うんですけれど。脱いだら脱ぎっぱなしなのか、下駄箱を作って入れるのかということもあるから、今からこれを変えるのは少し難しいかも知れないですね。もちろん運用ですから、玄関のエントランスのここで脱ぎましょうと言えば脱げない事もないんですが、いきなり来た人はびっくりしますね。

(委員) もう1つのアイデアは、よく歩く所はフローリングにして、そして、あちらの方にカーペット。そして、中に靴を置く場所。カーペットの所は、柔らかいふわふわのカーペットにして、わー入りたい、靴脱ごうって。

(参事) この役場も階段の所をなぜカーペットにしたのかと言うと、冬場はフローリングだと滑って転んで、危険なんですよね。寒くない地方ならフローリングでいいですけど。靴裏の凍っていたものなり水分が取れてからじゃないと、フローリングは滑る。玄関で完全に水分をとれる方法があればいいですけどね。

(古谷) 役場は元々は靴を脱ぐような設計になっていると思うんですが、ある時にこの方式に変えられたんですよね。

(参事) 2年程前です。

(古谷) 靴を脱ぐのをやめようと思われたきっかけはなんだったんですか。

(参事) 元々はやっぱり日本の文化という事で脱いでいましたが、今はどこに行っても靴は履いたまま。それからスリッパに履き替えることが、衛生的にどうなのかと

言う方がいらっしゃって問題になりまして。それで、下履きのまま上がれるようになりました。

(委員) 色を決める時、視覚障害者とか、弱視の方とか高齢者になってこの色の区別とかで家具との取り合いみたいな事があると思うんですけどその辺の考え方は？

(古谷) この床に対していえば、2色を織り交ぜたとしても、それは区別するものではなく、どっちに行ってもどういう風にしてもいいので何か道を示そうとは思っていません。自然に歩いていて汚れやすい所に濃い目の色、汚れにくい所に薄めの色を配置してだけで、そこに段差があったりするような事はありません。

(委員) 影とぶつかり合うとか、そういう危険がある所は考えたほうがいいんじゃないかなって。

(古谷) それはカーペットの色と本棚の色がはっきり別れたほうがって事ですか？

(委員) ええ。

(古谷) そうなと思います。本棚は基本的には柄が白くて骨は黒いんですけど、最後のパネルは白っぽいパネルではっきりしていますからそれに衝突する事はないと思います。

(委員) 外壁なんですけど、栗ガ丘小学校はベージュですか？それに一体感をもたせるような建物に。白だと綺麗だけど、ここだけ浮いちゃうような感じがして。北斎ホールの壁と丁度中間と言うか、合体と言うか、そういう感じがいい。

(古谷) 私も町長さんから強くあの色を言われたので、そうなるとある程度は同系色になるのが良いのかなと思っています。壁自体はそんなに大きくないから、濃い色を塗ったとしても、あんまり暑苦しいようなものにはならないだろうという風に思いますね。

(委員) そういうほうがいいですね。あまり強い色だと浮いちゃうし、白っぽい色でもおかしいだろうし。

(委員) 先程の床の問題で、カーペットもフローリングもやっぱりよい点とか色々ある。危険という話になるとやっぱりフローリングだと危険だと思う。先程言ったメンテなどのことも考えれば、間仕切りの事ももちろんあると思うんですけど、カーペットがいいと思いますね。

(古谷) 今調べている中で、滋賀県の今津町立図書館があります。そこが割と周りに泥がある所で、人が入ってきて泥を運ぶんじゃないかと考えられる図書館だったので、直接お尋ねしてみました。開館して7年、当初は汚れ等心配していたが特に問題は起きておらずクレームなどもない。全体的には週に一回掃除機をかける程度で、エントランス周りは毎日かけるようにしている。年に一回全面的なクリーニング。カーペットの色はクリーム色で今僕が考えているものよりはもうちょっと汚れが目立ちやすそうな色なんですけれども、そういう事でした。特に目立つ汚れがないので部分的な取替えはまだ行ってないと。設計建設中はフローリン

グという意見もあったが、ここの問題を配慮してカーペットを選択しています。田舎にあるので泥の汚れも心配したが、泥よりも小石などが入るほうが問題なので、小石の影響の少ないカーペットを選択したが、今の所問題ないということですね。他の、開館して10年経つ図書館でも特に問題は起きていません。10年経っても目立った汚れはないので張り替えは行っていません。もう少し調べて見ますけれど、タイルカーペットは張り替え可能とありますが、実際張り替えたという話をあまり聞いた事がないんです。それこそ20年30年経てば全面張り替えという事もあるんですが、部分的に何かをどのくらい張り替えましたという話は、あまり聞かない。なんとなく年月経てば多少はくすんでくるだろうけれど、気にならないという風に聞いています。さっきのフローリングは、値段の事もあり選択肢が非常に限られるんです。やっぱり価格がカーペットに比べると、格段に高価なものになりますから、限られた可能な予算の範囲内で選択していくと住宅用の比較的トップコートのきつめにかかっているものになる。それでも価格は上がるので、他に何かを減らすという事になってきます。

(委員) フローリングのメンテは大変だという話や、カーペットのメンテについては比較的安心して使えているようだという今の古谷先生のお話は充分理解出来ていると思うんですが、ただ、お調べいただいたデータを数字的に出していただきながら比較したらどうでしょう。

(古谷) 全体の材料と空調の方式とか吸音をどこで取るかというのは全部連動して設計されているわけですから、どこか一箇所だけ急に切り替えると、他に問題をきたす所がある。今の所は今言ったような管理メンテナンスの他の館の実態を調べさせていただいて、タイルカーペットであまり大きい苦情になった事はないと思いますので、総合的に判断していただきたいと思います。

(委員) 最近アレルギーの子供が多いのですが、抗菌とか防カビとかはどうでしょうか。

(古谷) 特別になにか、アレルギー対策用のカーペットまでは今は考えていません。

(八木) 最近の商品はほとんど全てが、防音とか防菌とかそういうものになってきています。もう1つ、さっきの消音のフローリングというのは最近マンションとかでもよくありますが、下の階に対して衝撃音が吸収されるように裏側にゴムがついているものですね。それでも上の固さはフローリングですので、床より上の館内に対してのコツコツ音はやっぱり、どうしても取れません。それから、もう1つは下が二重床になっているんです。だから、これはちょっと注意しないと、それこそ私達も一度失敗して張り替えた事もあるんですが、中で太鼓のように響く音が出てしまって、上でもコツコツ音が出てしまいます。

(古谷) 床下の二重になった所に暖かい空気を吹き込んで、それでじんわりと暖める非常に体に良い空調システムを採用しているために、この二重の床が出来ているわけなんですけど、マンション等のフローリングはコンクリートに直張りしています。

(委員) そうじゃなくて、普通のマンションだと、フローリングの下に消音材が入っていて上でも音が響かないってことだから、今作られているものは歩いている人の音とかそういうのも響かないように作られていると思うんですね。

(古谷) ただ、フローリングには限界があります、その足音とか。普通の住宅の人数ではない事を考えますと、ぼかぼかぼかって音もする可能性がありますね。

最後に。トイレの中など汚れやすい場所があります。とりあえずそのものは入り口付近の足跡以外のことを考えればそんなびっくりするほど汚れるものではないんですが、トイレその他の部分は樹脂製シートの床を使うようになりまして、トイレのこういうブースも内部の壁も床もこういう比較的清潔感のあるものにしておきたいと思います。

館内は大体これが最終案に近い形になりました。この通路の他にもう一本通路を作って、そして隙間を空けてベンチを置くという調節もしました。実はこれも予算の関係ですが、例のコストダウンをしなくてはいけなかった時に、前はこういう半端な寸法の時には特注寸法を入れておりましたけれど、これは全部企画寸法だけでできるように配列し直したものです。それから、このコンシェルジュカウンターから奥のカウンターに至る所にずーっとつながっていたカウンターが、大体こんな感じになりました。この本棚は児童書コーナーという事で主に絵本をここに収納しようと思っていますので、かなり厚めなタイプや横長な絵本もたっぷり収納できるように奥行き 35 c mの本棚を持ってくる。一方こちらで視聴覚に使っているブースがありますので、ここに立っている人が視聴覚を見ている人を前から覗き込む事のないように、基本的には少し高めの間仕切りにもなっている本棚です。その下に紙芝居を収納するワゴンが入っています。全部ここには入りきらないので、ここに置いてあるちゃぶ台のようにも使える四角いこの箱状のワゴンの中にも残りの紙芝居を入れて、全部で 500 冊、児童書、絵本は、5000 冊確保した計算になります。こちらには検索カウンターという事でパソコンを置きますけれども、立ったまま検索するという事で、一段高めのカウンターにしてあって、どちらから来てもいいように設置します。コンシェルジュカウンターからは水回りのものをちょっと離れた方がいいと言うお話があったので、このまるいテーブルを別に用意しまして、そのテーブルに流しやコーヒーマーカーがセットできるようなちょっと低めのまるいテーブルを置きましてそれを囲んでお茶が飲めるようにしました。ただしここにはあまり長居をしないように、快適なソファは置きません。ほとんど丸い椅子で、ちょっとお茶する感じ。いざとなればぱっとどける事もできます。一方こちらのほうは、この辺りの変更に伴って新聞をこちらに置きましたので、前この辺に配置しようとしていた新聞や雑誌を読む腰掛ベンチのようなものは、入って右側の所に配置するようになりました。実際はもうちょっとこちら辺は隙間が出来ます。その奥は楕円のテーブルですけど、両

側ともそのテーブルの両脇を車椅子で通行できるように内向きに配置していましたが、それだと少しきつい所があるのでこっち向きに配置します。こちら側にはもう少しちゃんと勉強したい方用のタップライトが組み込まれている読書机が配置されます。ここは一番長居をしてもいいような、くたびれないようにこの椅子はちょっとした肘掛つきのものを選ぼうとしております。楕円テーブルの椅子は逆に肘掛まではつけない。グループで何かするのに邪魔だから。

(委員) こっちの本棚の後ろはこれ、ずれますか？

(古谷) いいえ、ずれません。一応見えている側はこちら側で使います。この上に本を広げて読む事もできるし、この奥になる部分だけはちょっとストックというか物入れる程度に考えていて、要するに、所謂本棚としては使わないけど、ちょっと閉まっておけるような。

(委員長) 他には何かご質問ありますでしょうか。

(委員) 板材でお聞きしたいんですけど、県産材でしょうか。それからスギアレルギーという方もいらっしゃると思いますが、その辺の考え方があれば。

(古谷) 私達も県産材に限定したいのは山々なんですけれども、建設会社の仕入れ価格の問題もあり、完全に県産材とは言えない状態です。所謂地場産材、県産材と言うんだけど、肝心の県産材が調達できないという事がたまにありますし今は限っていません。それと、スギの板材のアレルギーですか？

(委員) はい。あまり多くはないですが。

(古谷) 基本的には所謂シックハウスのような問題に関しては厳重に管理してまして、花粉症と似たような感じで、板材にも反応される方もいらっしゃるみたいなんですけど。まあ、一応木材ですので、ないとは言いきれませんが、そのままになっている訳ではなく塗装していますのである程度抑えられると思います。ちょっと調べてみます。

(委員長) ありがとうございます。

ずっと議論してきた愛称募集については是非皆さん、気分を盛り上げて投票していただくようにお願いします。

それから、お手元にある1枚の資料は、あるブログをコピーしたものです。神戸の芸術工科大学の先生が私達の新図書館の愛称募集や建設の趣旨などについて、とても共鳴して応援のメッセージのようなものを全国に配信してくださっています。是非、お家に帰ってお読みいただければと思います。

ではこれで今日の会合を閉めますので、よろしく申し上げます。どうもありがとうございました。

## 6. 閉 会